

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

自己マネジメント力を育成するための 家庭学習への取り組みせ方

喜多方市立第一小学校

家庭学習に前向きに取り組む児童(家庭)と、そうではない児童(家庭)とで、意識に差が見られる。まずは、家庭学習が子どもの将来にとって意義ある取り組みであることについて、自己マネジメント力と結びつけて保護者や児童に啓発していく取り組みを始めた。

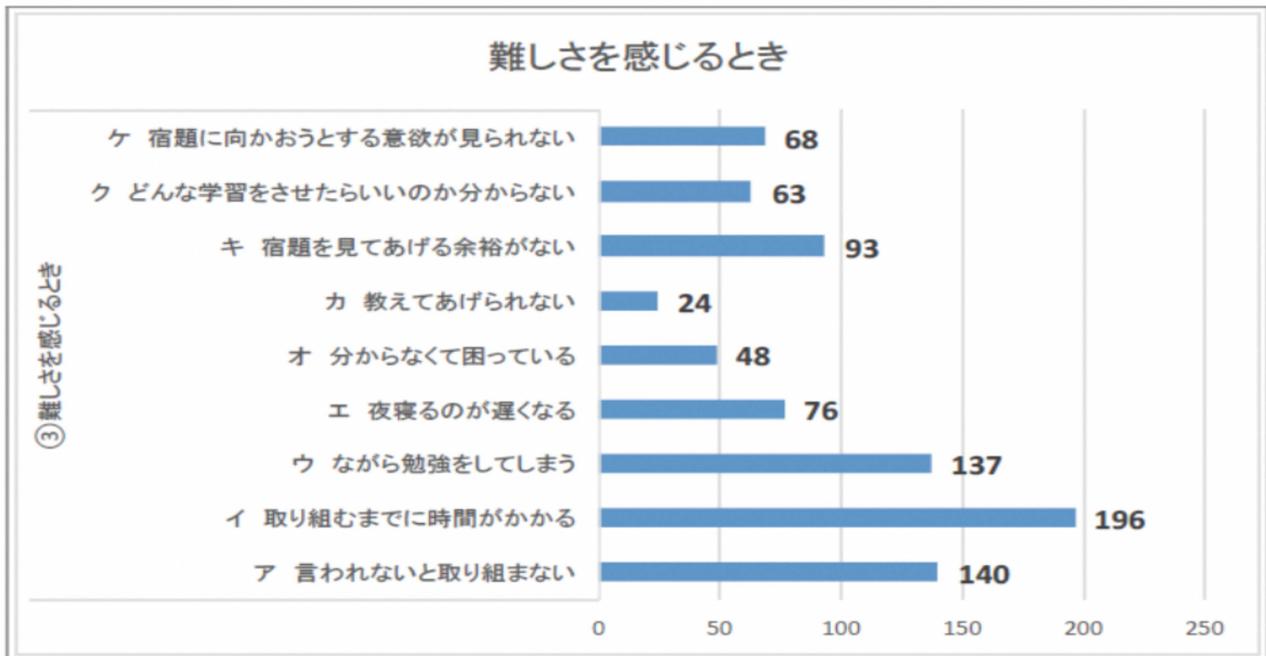
取組のねらい

家庭学習の意義について、自己マネジメント力と結びつけながら啓発を図る。

家庭学習について、各家庭により意識に差が見られるので、まずは家庭学習の意義を再確認してもらい、取り組みが活性化するように啓発していく。

取組の内容

保護者へのアンケートにより、家庭学習への取り組みせ方について困り感を把握する。



「家庭学習通信」を発行し、保護者に啓発やアドバイスを伝える。(別紙資料)

上記のアンケートの結果と家庭学習スタンダードを結びつけながら、保護者へ家庭学習の意義や、取り組みせ方のアドバイスを行った。特に、学習の内容よりも、自分から時間や場所を設定して進んで取り組めるようにするための「自己マネジメント力」の育成を念頭においた。

実践して見えてきたこと

家庭学習への取り組みせ方について、具体的な「手引き」が必要

本校では4月に家庭学習についてのお便りを出しているが、学年や子どもの実態に応じることのできる具体的な手引きが必要と感じる。学習の内容よりも、自分から取り組めるようになるためのアドバイスが必要である。

保護者との双方向化を心がけ、学校からの一方的なものにならないようにする。

今年度発行した家庭学習通信でも、感想や意見を募集したが、保護者からの意見は少数であった。「あらためて家庭学習について見直すことができました」というような前向きな内容であったが、さらに保護者の悩みを教員が共有するために、できるだけ多くの保護者の思いを吸い上げていきたい。

子どもたちの
未来のために…

(実家庭配付)

家庭学習通信

第5号
喜多方市立
第一小学校

今回のテーマ

自主学習お悩み Q&A

先日お答えいただいたアンケートに、色々なお悩みが見られました。今回は Q&A 形式で、お悩みにお答えしたいと思います。

Q 教えてあげようとする、つい厳しくしてしまうのですが・・・。
説明しようとする、どうしても怒ってしまう。

A お気持ちは大変よく分かります。少しでも身になる学習をしてほしいという親心ですから、当然のこととも言えます。

ただ、これまでお伝えしたように、**家庭学習は取り組んでいることを称賛することがとても大切**です。自己マネジメント力を育てるためにも、子どもの自主性を尊重することが必要です。

ここは、言いたくなる気持ちをおさえて、**目線を思い切って下げてあげましょう**。内容が伴わなくても、少し字が乱雑でも、**取り組んでいること自体が素晴らしい**。そういう気持ちで、温かく接してあげることが、かえって良い学習につながる近道です。

Q 先生と家での教え方が違うと混乱してしまうのでは？

A 例えば、筆算の繰り上がり、繰り下がりの書き方など、子どもが習った方法と私たちが習った方法が違うことがあります。そのような場合、おそらく**子どもは自分が習ったやり方でないと納得しない**でしょう。

その場合は、**基本的に子どもが習ったやり方に任せるのがよい**と思います。その上で、アドバイスとして、「お父さん・お母さんはこんな風に習ったんだよ。」と、紹介する気持ちで伝えてあげるといいと思います。色々な方法・解き方があると知ること、大切な学習です。押し付けにならないよう「**こんなやり方もあるよ**」と**提案**してみてください。それでも理解できない場合は、学校で先生に相談するよう話してあげてください。

Q 親が問題を出しているが、この出し方でよいのか不安になる。
いつまで問題を出してあげられるか分からない。

A 自主学習を見ていると、**保護者の方がノートに問題を書いてくださっているもの**も見られます。熱心に見ておられて、お子さんにとっても大変よいことだと思います。親子のコミュニケーションも取れますし、お子さんの学習の様子も分かります。実態に合わせて学習を選択することもできます。

一方、学年が上がってくると、学習量も増えますので、毎日これを行うのはますます負担になってくるでしょう。また、自己マネジメント力を育てるためにも、少しずつ「**学習内容を自分で選択する**」力も身につけさせたいところです。徐々に手を離し、教科書やドリルから問題を一緒に選択してあげるなど、自分で内容を決めるようにしていくことがお子さんにとってもよいことかと思えます。

Q 家庭学習を見てあげる時間の余裕がない。

A 現代は共働きの時代です。保護者の方が夜遅くならないと帰宅できず、一緒に見てあげることができないというご家庭もあると思います。それでもお子さんのことを心配しておられること、頭が下がります。

学習している様子を見てあげるとはもちろん大切ですが、時間的に難しい場合は無理をなさらないでください。保護者の方ががんばりすぎると、お子さんにも厳しく当たりがちですし、子どもにも保護者の方にもゆとりがなくなってしまいます。

そんなときこそ、ハードルをうんと下げて、「**お父さん、お母さんが見ていなくても、やるべきことをちゃんとやっていて、なんて素晴らしい子どもなんだ!**」としっかり伝えてあげましょう。例えば、終わった宿題をテーブルの上においておくという約束にして、終わったあとを見てあげるだけでもいいですし、朝一言「昨日もがんばっていて、本当にえらいね!!」と言われるだけで、子どもはうれしいものです。

帰宅が遅くなって、見てみるとまだ取り組んでいない。そんな状態が続く場合は、一度じっくり「**家庭学習は自分で取り組めることが大切なこと**」「**自分で学習できることは、これからのあなたの人生に大きな力になること**」「**お父さん・お母さんがいなくても、時間を決めるなどして、少しでもいいから自分で始めること**」を話してあげてください。学習の意味を子どもなりに納得し、「できそうだ」という見通しがもて、やったこと、やろうとしたことを称賛されれば、子どもは自分で学習に向かうようになっていくと思います。繰り返しますが、内容よりも取り組もうとする姿勢を育てることが第一です。

授業と授業をつなぐ家庭学習を通して、主体的に学び続ける意欲を育む

喜多方市立上三宮小学校

自校の「家庭学習の手引き」を改善し、家庭でのチェックや声かけをお願いすることで児童の意識が高まってきた。さらに「自己マネジメント力」を育む基盤としての生活習慣づくりにも取り組み、時間を有効に活用したり集中して家庭学習に取り組んだりできるようにしている。

取組のねらい

本校では、ふくしまの「家庭学習スタンダード」をもとに、自校の「家庭学習の手引き」を見直し改善して、各学年の発達段階に応じて家庭学習に取り組ませてきた。日々の様子や学校評価アンケートの結果から、どの学年も家庭学習に取り組む姿勢は良くなってきていることがわかった。しかし、まだ個人差があり、受け身の児童も見られ、取り組む内容にも差がある。授業と家庭学習とが更に結びついていくことで、主体的で自立的な学習につながっていくものと考え、指導に当たってきた。

取組の内容

(1) 児童の毎日の学習状況を保護者と教師が確認

年度初めに、児童と家庭に「家庭学習の手引き」を活用する旨を知らせ、「家庭学習カード」を作成し、1ヶ月サイクルでR-PDCAを意識させながら、全校生が同じ歩調で取り組んできた。1週間ごとにチェックを行い、月初めに次の月に頑張りたいことを記入させた。家庭と協力しながら取り組み、チェックや声かけをお願いすることで、児童の意識も高まってきた。



家庭学習カード（下学年）

(2) 授業と家庭学習をつなぐ取組



児童のノートより（自主学習）

授業の中で押さえておきたい内容や、繰り返し取り組むことで定着を図ることができる内容などを家庭学習や自主的な学習などで振り返らせている。特に高学年では、ドリル的な課題に加え、自分が選んだ新聞や資料の内容を要約したり、見出しをつけたり、自分の考えや意見をまとめたりする課題を意図的に出してきた。その結果、短時間で要点を把握したり、内容を読み取ったりする力がついてきた。今後は、自ら内容を考え、自分にとってよりためになる家庭学習に取り組むことができるようにしていきたい。

(3) 「自己マネジメント力」を育む取組（習慣づくり）



養護教諭による全体指導

8・9月		8/30	9/6	9/13	9/20	9/26
1	毎朝は早く起床 習慣（1時～7時）	○	○	○	○	○
2	毎日は早く起きた 習慣（1時～7時）	○	○	○	○	○
3	朝ごはんを食べた ○ パラソル △ 雨傘 × 傘が壊れた	○	○	○	○	○
4	朝のマラソンをした	○	○	○	○	○
5	よい寝方で、授業を 聴けている	○	○	○	○	○
6	おたのしみ時間 の準備をした ○ 忘れ物 △ 忘れ物 × 忘れ物	○	○	○	○	○
7	宿題は、よくのんで 書けている	○	○	○	○	○
8	ハンカチを持っている	○	○	○	○	○
9	ティッシュを持っている	○	○	○	○	○
10	つねは早く帰ってある	○	○	○	○	○

生活チェックカード

「自己マネジメント力」を育む基盤としての生活習慣づくりにも取り組んできた。養護教諭を中心に「早寝・早起き・朝ご飯」をキーワードとして、規則正しい生活が送れるように継続して指導してきた。また、「生活チェックカード」を活用し、子ども自らが自分の生活を振り返り、生活習慣の見直しを行ってきた。

子ども自ら家庭学習の基盤となる生活時間を見直し、規則正しい生活を送ることで、家庭においても時間を有効に活用したり、集中して取り組んだりしようとする意識が高まってきた。

実践して見えてきたこと

家庭学習の充実

- 授業での学びと家庭学習のつながりを意識し、既習事項の振り返りを行ったり、学習内容のまとめや補充・発展的な課題を意図的に出したり、予習的な課題を出したりすることで更に児童が主体的に取り組むことのできる家庭学習になるようにしていきたい。また、少人数の指導の利点を生かし、児童の学力や実態に応じた効果的な家庭学習の出し方について考えていきたい。
- 「家庭学習カード」の活用により、主体的な取組は身に付きつつある。更に、家庭での学習・生活チェックシートなどで自分の取組を振り返らせることで、子どもたち自ら家庭学習の内容を考えたり、工夫したり、生活を改善したりするなど、主体的な取組ができるようにしていきたい。